

協働契約 事業実施結果報告書

1 事業概要

受託者及び代表者氏名	公益財団法人 尼崎市文化振興財団 副理事長 村山保夫
事業名	令和5年度 A-LAB 運営業務委託

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・ 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- ・ 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・ 協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・ 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	A
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容			
1	評価指標	魅力的な展覧会を開催できたか			
	測定方法	アンケートで展覧会・作品について「満足」又は「まあ満足」と答えた入場者の割合			
	結果	90.3%			
		内訳：下表参照			
			満足 [人数(%)]	まあ満足 [人数(%)]	(参考) 回答者数
		Vol.38「A-LAB Artist Gate' 23」	55 (57.3%)	27 (28.1%)	96
		Vol.39「RE:AMA」	53 (63.9%)	22 (26.5%)	83
		Vol.40「まちのことづて」	78 (60.9%)	35 (27.3%)	128
Vol.41「たましいのかたち」		97 (63.8%)	44 (28.9%)	152	
Vol.42「テーブルにトマト」	76 (71.0%)	23 (21.5%)	107		
	計	359 (63.4%)	151 (26.7%)	566	

3 総合評価

協働側面の評価
<p>2か月に1回定例会議を行う中で、展覧会計画や実施後の振り返りを共に確認しながら進めることができた。</p> <p>展覧会の企画、出展作家との調整・設営補助、作品の運搬などは、文化振興財団のアートディレクターや学芸員などがその専門性を活かして実施することができた。展覧会の関連イベントの調整の際には、市が公園利用の調整を行うことでスムーズに対応することができた。</p> <p>一方、市は、生涯学習プラザで実施するワークショップの実施にあたり、庁内調整や当日の運営などを行った。ワークショップの申込者が定員を超えた際には、双方で協議した上で追加開催をすることで、より多くの子どもたちに参加機会を提供することができた。</p> <p>また、来館者の状況を踏まえた開館時間の提案を財団から行い、協議することで、次年度の開館時間の変更につなげることができた。</p>
事業効果の評価
<p>満足度に関しては、2人のアーティストのコラボレーション展として実施した展覧会「テーブルにトマト」が特に「満足」と回答した来館者が多かったが、多数の絵画を並べる展覧会で親しみやすいものであったことが評価されたのではないかと考えられる。</p> <p>展覧会「RE:AMA」は、大学生が寺町をリサーチして作品を制作する実験的プロジェクトであったが、作品として可視化した寺町を市民が鑑賞することが、新鮮に捉えられたのではないかと考えられる。</p> <p>いずれも、企画の狙いを共有しながら、文化振興財団の企画力を活かして実施できたことが魅力的な展覧会につながったものとする。</p>

総評

- 事業目的と各展覧会の狙いが合致したものであるかを確認し合う場があることで、委託者・受託者がより協働して取り組み、事業効果を高めることにつながると実感できた。
- 双方の状況を共有することで、予定外の場合にもスムーズに対応することができた。
- 仕様書に定めのあることについて、現場の実態を踏まえて協議することができた。